

名称：気仙沼図書館で地域価値発見：フィールドワークと哲学カフェ  
「気仙沼てつがく探検隊」第3回

開催日時：平成29年7月22日(土)～23日(日)

開催場所：気仙沼市立月立小学校および周辺

主催：Ristex「多世代哲学対話とプロジェクト学習による地方創生教育」(代表・立教大学河野哲也教授)

共催：気仙沼市教育委員会、気仙沼図書館、岡田新一設計事務所

協力：気仙沼市社会教育委員 小山茂樹氏

「八瀬・森の学校」代表田村泰二氏他2名

参加：ジュニア・リーダー(小・中・高校生6名)

立教大学ファシリテーター・スタッフ：

河野哲也(文学部教育学科教授)、奇二正彦(生態計画研究所主任研究員、立教大学元兼任講師、帝京科学大学兼任講師)、柳瀬寛夫(岡田新一設計事務所取締役社長、立教大学兼任講師)、廣畑光希(立教大学文学部研究科博士前期課程)、福井夏海(立教大学ESD研究所研究員)、得居千照(筑波大学院生)、進藤初音(立教大学教育学科4年生)、盛岡千帆(武蔵野大学教育学部4年生)、

気仙沼市担当：熊谷英樹(気仙沼図書館長)、山口和江(気仙沼図書館司書)

熊谷啓三(生涯学習課長補佐)、神谷卓也(同生涯学習係主幹)、

大山治子(生涯学習係)、渡邊貴登(生涯学習係)

本紙記録：柳瀬寛夫、小林信策(岡田新一設計事務所 気仙沼図書館・児童センター設計担当)

目的：学年を越えて子どもたちが集まり、地域の自然と文化、歴史、産業を「フィールドワーク」で体験し、自分たちの住んでいる場所の価値と問題を見つめ直し、これからどのような地域社会をどのようにつくっていけばよいかを「哲学カフェ」で話し合う。対話を通し、見出した自らの関心・探究課題について、「図書館」で個々人が資料の探索を行う。(なお今回は、図書館で選書したテーマ関連本を会場まで運んでいただいた。)



現 月立小学校グラウンド。傾斜地のため旧校舎や山すそは隠れ、近景と遠景が繋がって見える。自然の移ろいをはっきりと体感できる。それは偶然とはいえ桂離宮月見台や修学院離宮、圓通寺の庭づくりに共通する。気仙沼の里山は優れた景観スポットを随所に造りやすい(建築家の見立てを写真比較で解説；柳瀬)



木造旧校舎

「トトロ」に出てくるような月立小学校前バス停。宮崎駿監督がこの周辺を取材にきたとの話もあり、頷ける里山の風景



新体育館にテントを張り一泊

雨のため中止となったプログラム ①塚沢古墳：古墳に向き合う木立のなか、1300年を経て残されている祈りの空間に、何を感じるか ②グラウンドに寝そべり満天の星空を観察+詩の朗読を聴く



1. 図書案内：気仙沼図書館山口司書(オリエンテーションの後、13:15～13:30)

今回の活動に関連する本を200冊弱、図書館から会場に運び自由に閲覧できるように開架。その内容紹介と利用の仕方を案内



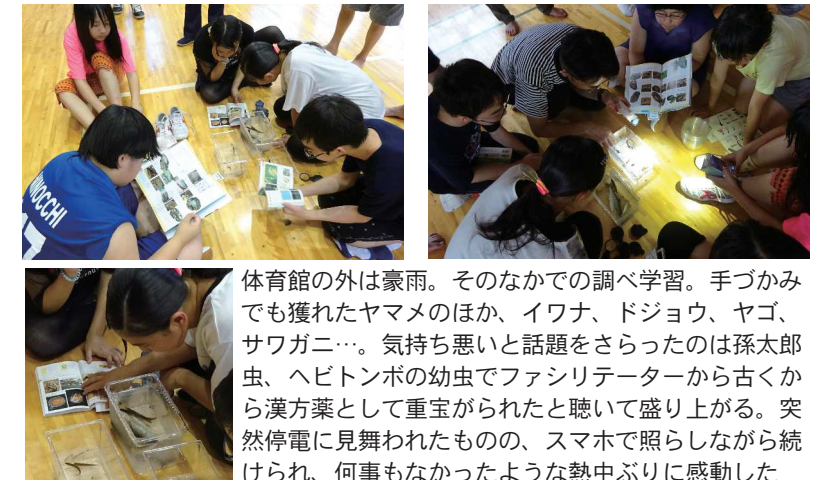
2. フィールドワーク：ファシリテーター奇二正彦+サポート小山茂樹氏(13:30～15:00頃豪雨により中断)

旧月立小学校下を流れる八瀬川に入って生き物観察、採集、築を仕掛ける。降雨のため塚沢古墳は断念



体育館に戻った途端、激しい雨に

採集してきた生き物の名前を本で調べる。ファシリテーターが補足解説



体育館の外は豪雨。そのなかでの調べ学習。手づかみでも獲れたヤマメのほか、イワナ、ドジョウ、ヤゴ、サワガニ…。気持ち悪いと話題をさらったのは孫太郎虫、ヘビトンボの幼虫でファシリテーターから古くから漢方薬として重宝がられたと聞いて盛り上がる。突然停電に見舞われたものの、スマホで照らしながら続けられ、何事もなかったような熱中ぶりに感動した

3. 晩ごはんをつくる(地元新鮮野菜と肉のカレー、ポテトサラダ等)：

準備・指導 生涯学習課、小山茂樹氏、立教大学ファシリテーター・スタッフ(17:00～19:00過ぎ)



木造旧校舎の一部を地元有志による「八瀬・森の学校」が活用されている。その調理室にて晩ごはんづくり。カレー、サラダの下ごしらえから協働作業。ご飯は大きな釜で炊いた。昇降口外では炭火ホルモン焼。どれもおいしくみな満足

4. 花炭をつくる：

雨対応プログラム。残り火を使いマツボックリ、ドングリの花炭をつくる。黒光りするきれいなお土産ができた



5. 朝ごはん：

翌朝、体育館にて朝食はセルフサービスのサンドイッチ



6. 哲学カフェ：ファシリテーター 河野哲也、廣畑光希(翌23日8:00～10:00)



<前半>

川遊び、採取した魚たちを川に戻したことなどを通して「自然を大切にしたい」思いが語られた。草も一本ずつ命があり人も同じ。ならば家畜や野菜は当たり前食しているのか、自然と人の手が加わったものの違いは？技術や科学を高めることによって人と自然の関係も変わる？などが話し合われた。対話を通して「改めて自然を見つめて考えたい」「肉や野菜を食べる時には感謝の気持ちを持ちたい」など自らの意思を確認する発言が多かった

<後半>

小学生から、授業の川遊びは一定場所。川の中を歩いて、いろいろな場所に違う生き物がいることがわかったとの感想。ころばないように集中していたので、あっという間、短く感じた。その一方、一日が長く感じられたとの発言も。「時間を短く感じる」「長く感じる」とでは何が違う？、時間感覚は入り混じる？…などの意見が飛び交った。また「自然」に話題は戻り、自然を知る、親しむための採取は許される？、それでも愛しむ気持ちを持つべき、などが話し合われた

7. そば打ち体験+昼食：「八瀬・森の学校」(10:30～12:30)



「八瀬・森の学校」の看板メニューである「そば打ち体験」。手作りの蕎麦に舌鼓を打つ